

支部協だより ちやーがんどじゅう

第240号

発行所
 NTT労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-1
 NTT城間ビル7F
 TEL.098-870-7101
 FAX.098-875-7450
 発行責任者
 会長 金城 章

沖縄の現状に向き合う

〈中央協議会と連携した取り組み〉

戦後80年の節目にあたり、支部協では中央協議会と連携し、1月下旬から2月中旬にかけて、今、沖縄で何が起きているのか。沖縄の現状に向き合うことを目的に①戦後80年、会員からの戦争証言②沖縄の基地問題と沖縄県の経済



普天間基地眺望

振興(沖国大前泊教授)③PFAS汚染処理水の問題④浦添市西海岸の埋め立て問題⑤八重山の自衛隊基地強化などをテーマに現地見学、関係者等へ面談などを行いました。今回は紙面の都合で二つのテーマに絞ってレポートします。

戦争証言について、別項で紹介しています。

〈沖縄の基地問題と沖縄県の経済振興〉

沖国大校舎で普天間基地の全貌を眺めながら、前泊教授は①普天間基地には新しい施設がどんどん建設され、むしろ強化されているようだ。実際に普天間基地が返還されるかどうか疑問を呈した。②自衛隊基地については、全国約450の自治体が誘致に動きだしている。基地は不況に強い。金がもたらえると思ってい

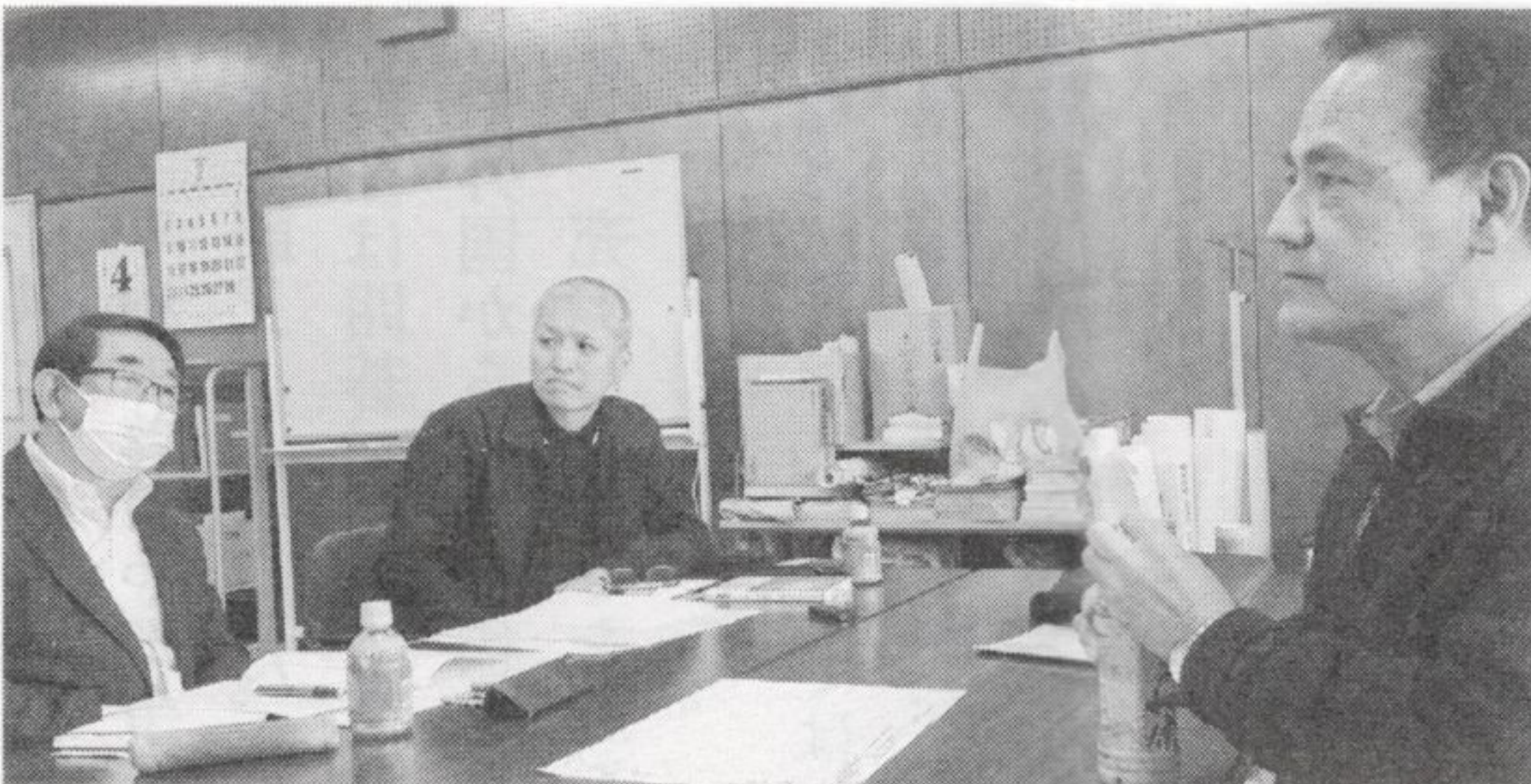


前泊教授 (中央協議会) 川辺会長
 (中央本部 情報宣伝部) 梅山部長
 (支部協議会) 金城会長 喜久里事務局長
 高良幹事

て、復帰直後は15%程度であるが、近年は5%程度であり、基地関連収入が県経済に与える影響は限定的である。基地は不経済である。④辺野古新基地建設については、今や、ミサイル防衛の時代、長距離ミサイルの時代になっても適応する基地なのか、抑止力になるかどうか、軍事専門家に言わせれば、費用対効果から、空母が4チームも作れると言っている。一部の政治家と関係する利権のために埋め立てが強行されています。再検証すべきと指摘しました。

〈PFAS汚染処理水の問題〉

米軍普天間飛行場の周辺で高濃度の有機フッ素化合物(PFAS)が検出されている問題で市民団体「宜野湾ちゅら水会」の照屋正史事務局長に現地、喜友名泉(湧き水ちゅんながー)でお話しを伺った。今や、全国各地で有機フッ素化合物(PFAS)が問題になっているが、沖縄県の汚染源は「米軍基地」だと指摘した。宜野湾で僅かな人数で活動している。基地内立ち入り調査を阻む日米地位協定の改定や市民の血中濃度調査の早期実現など取り組んでいくと述べた。現地視察にあたり、元沖縄テレビの平良いずみ氏、沖縄県議会議員の喜友名智子氏にご協力いただいた。



前泊教授から説明を受ける川辺会長、梅山部長



「宜野湾ちゅら水会」の照屋事務局長



湧き水ちゅんながー

〈浦添西海岸埋め立て問題〉

浦添西海岸埋め立てに反対活動を行っている、浦添市港川自治会の銘荻全郎氏等と寒風の中、浦添西海岸「かーみーじー」でお話を伺った。

①沖縄県・浦添市・那覇市と合意の上、那覇軍港の浦添西海岸への移設、併せて浦添西海岸の開発する計画が着々と進められている。20年近く、海を守るため、埋め立てさせない、又軍港を造らせない運動を自

治会主体で活動している。

②開発の名のもとに現那覇軍港の移設を並行して行うことには断固として反対である。恐らく現那覇軍港より基地機能が強化されるのではないかと懸念を持っている。また日米共同使用とすることになりかねないと考えている。

③西海岸の北側は自然に恵まれている。潮干狩りや環境学習の場である。地元小学校では港川自治会と連携して学習活動を行っている。海は宝である。そして立派な教育の場である。

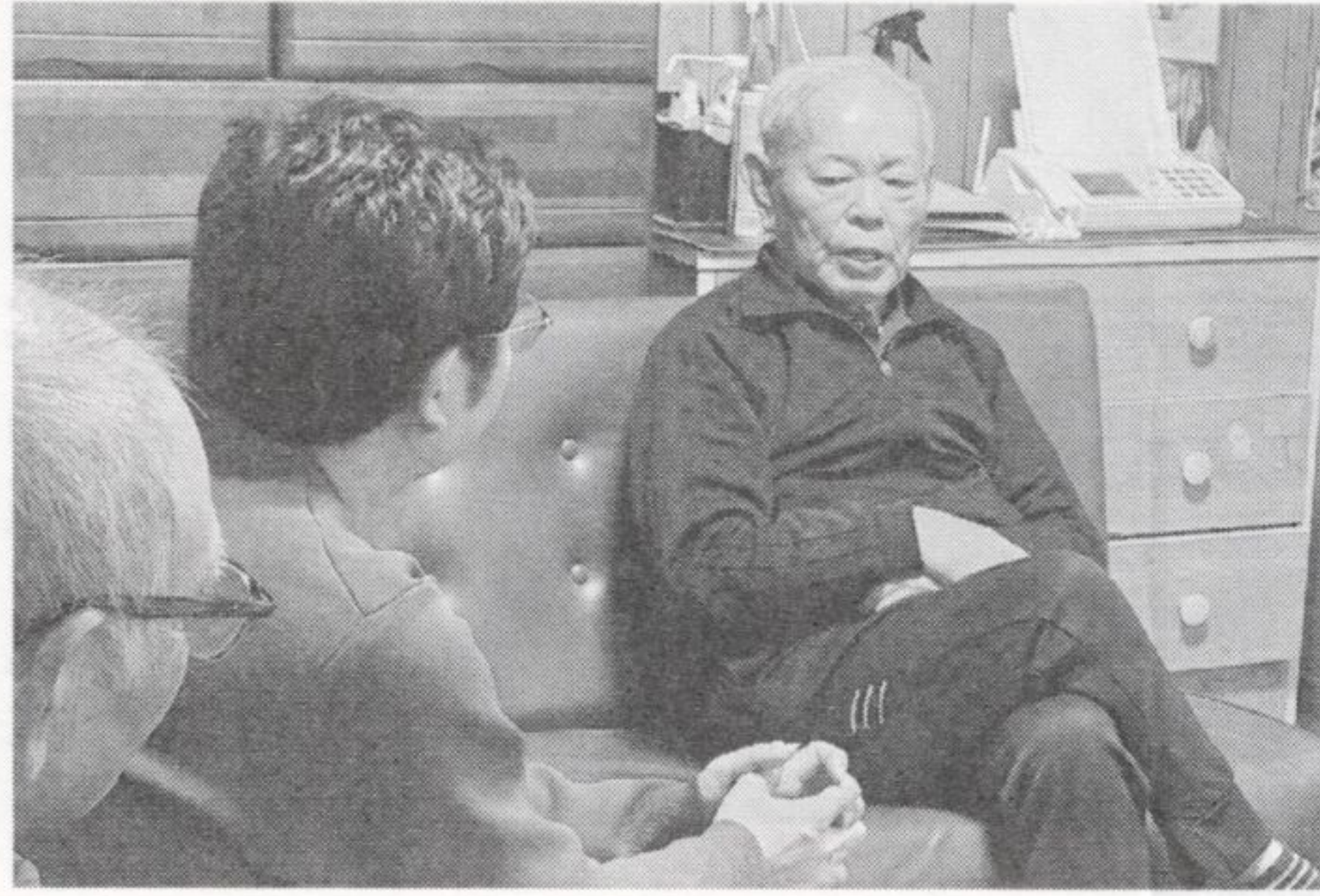
④埋め立てすることにより潮流の変化、藻場、干潟が減少し、さらに珊瑚礁の死滅は確実にある。自然破壊が進行し、原状回復は困難となると述べた。



浦添西海岸那覇軍港移設予定地

平和の大切さ伝え、 広げる取り組み

「戦後80年」歴史証言の取材
1月31日(金)NTT労組「戦後・被爆80年」の節目の取り組みで、戦争体験者聞き取り取材に同行しました



大宜味村在住の平良森雄会員の自宅に中央本部島崎執行委員、グル連桃原事務局長、Frage我那覇さん、退職者の会金城会長、北部地区協伊波副会長、喜久里と総勢6名でお邪魔し話を伺いました。
森雄さん、90歳と思えない



ほど若々しく、とてもお元気で80年前の記憶を蘇らせ語ってくれました。当時大宜味から那覇に引っ越し小学校の3年生。昭和18年ごろには戦争始まるかのように夜になると明かりが漏れないよう電灯に黒い布をかぶせたり、両親から子供たちの疎開の話聞いたが、戦争がどういものか分からなかった。父親は大工をしていたので那覇に残り、母親と子供たちだけでヤンバルに帰されたが、ヤンバルでの生活は衛生面や食料難で大変だった。「生きていた物はなんでも食べた、食べ物がなくソテツも食べて亡くなった人もいたよ」それから祖父、母親、父親、と大切な人達も亡くなった。「戦争は一般

住民や子供たちが犠牲になる」など、平和の尊さや戦争の悲惨さを語ってくれました。
現在は囲碁、民泊で子供たちや外国からのお客様をもてなし、充実した日々を過ごされ、とてもお元気でした。
なお、証言等については「NTT労組新聞」で紹介されます。

喜久里 艶子

「会員の訃報について」

謹んでご報告し、故人のご冥福をお祈りいたします

上間 康 弘	81歳
25年1月2日	那覇市
當 間 榮 文	85歳
25年2月7日	浦添市

2月号 吉川さおり



2月8日、重要インフラへのサイバー攻撃を未然に防ぐ「能動的サイバー防御」を導入するための関連法案が閣議決定されました。今回の法案では、平時から当事者の許可がなくとも幅広い情報を政府が取得できるようになります。通信傍受法では裁判所の令状に基づいて犯罪に関わる通信を調べますが、今回の法案では犯罪の嫌疑がなくとも政府が情報を収集、分析することになり、大きな転換点となる法案であるともいえます。

今回の法案には、サイバー攻撃の兆候があれば、無害化措置を講ずるなど防御能力を高める狙いがありますが、憲法第21条「通信の秘密」との整合性も論点のひとつとなります。

憲法第21条の通信の秘密の保護には、国民が安全・安心に通信を利用できるよう通信制度を保障することにより、国民の通信の自由を保障することにあると考えられています。さらに、電気通信事業法第4条第1項は、「電気通信事業者の取扱中に係る通信の秘密は、侵してはならない。」と定めています。この規定は、これによって電気通信事業者を含めて何人からも通信がみだりに侵害されないよう利用者の通信を保護し、もって利用者が安心して通信を利用できるようにすることで、表現の自由や知る権利を保護するとともに、電気通信ネットワークや通信制度そのものへの利用者の信頼を確保し、電気通信の健全な発展と国民の利便の確保を図るという意義も有しています。また、電気通信事業に従事する者には、電気通信事業法第179条第2項において、通信の秘密の侵害行為について罰則が科されていることから、今回の法案については電気通信事業者としての観点、国民利用者としての観点の双方の立場から見ていく必要があるといえますが、法案の所管が内閣官房であり、内閣委員会で審議される予定です。

沖縄県議会議員補欠選挙 「仲村未央氏」擁立決定



仲村未央氏

1月26日投開票の沖縄市長選では、沖縄市在住・会員の皆さんご支援いただきましたが力及ばず敗れてしまいました。今回、県議会議

員補欠選挙に「仲村未央氏」を擁立決定しました。「託していた一票の重みを無にすることなく、あきらめず、沖縄の諸課題に挑み続けたい」との思いで県議補選に向かいます」と述べています。
ご支援宜しく願います
告 示 2月28日
投票・開票 3月9日

退職者説明会開催、 新たな仲間歓迎

2月7日に「2024年度退職者説明会」が開催されました。当日は生協本部・労働金庫・こくみん共済Coop(全労災)・きらら保険サービス・アフラック・分会・部会役員、福祉担当者による丁寧な説明で退職予定者39名中33名が退職者の会へ入会しました。

また、退職者の会の幹事も参加をし、待機コーナーで知人・元同僚等に声をかけ退職者の会の活動、加入案内を行いました。久しぶりに会う皆さんの近況報告や退職後の予定などで話が弾みました。

今後も多くの会員が参加できる活動を進めてまいります、ご協力よろしく願います。
なお、新しい会員については、4月発行の支部協だよりでご紹介をさせていただきます。

